

別記

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	岸本充生 大阪大学データビリティフロンティア機構／社会技術共創研究センター
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	日本リスク学会は、様々な分野を「リスク」という横串でつなぐという重要な機能を持っています。最近の生成 AI の急速な社会実装と発展に伴い、安全性やリスクが話題になっています。しかしこれらの議論にはリスク学の知見がほとんど生かされていないように見えます。EU の一般データ保護規則 (GDPR) にも、3 月に採択された AI Act においてもリスクマネジメントの考え方が採用されています。しかも「守りたいもの」が人権や民主主義など大幅に拡大しています。情報技術分野における Risk based approach と、それを具体化した、プライバシー影響評価 (PIA) などのリスクマネジメント枠組みの実践に重点的に取り組んでいきたいと考えています。
② 本学会におけ る 活動歴	学会誌への論文は共著も含めて数本。2008 年には奨励賞を受賞。2012 年以来、理事として事業委員会の委員長を務め、タスクグループの立ち上げにかかわった。また「リスク学事典」の全章査読委員を務めるとともに、共著も含め 10 項目を執筆した。
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	博士 (経済学) を取得後、工業技術院に就職したのち、産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター、続いて安全科学研究部門に所属。2014 年から東京大学公共政策大学院と政策ビジョン研究センター特任教授。2017 年 4 月より現職。

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	岸本充生
② 推薦者の 姓名と所属	米田稔 京都大学 環境安全保健機構
③ 推薦理由 (400 字程度)	産業技術総合研究所安全科学研究部門持続可能性ガバナンスグループ研究グループ長、東京大学公共政策大学院及び政策ビジョン研究センターを経て、大阪大学に移られた経歴からも明らかのように、岸本氏は、リスク研究にかかわる「実践」の現場と「理論的・学術的」領域に豊富な知識と経験を有す。国内外の最新の政策動向・研究動向に明るく、独創的な切り口で問題を捉える洞察力により、国の政策や学術研究に大きく貢献してきた。リスク研究に必要な幅広いネットワークを持ち、自然科学と社会科学・実践と理論の異分野をつなぐ「総合知」を自ら体現している。リスク学会においては、リスク学事典編集、シンポジウムの企画開催、2022 年からは副会長として学会運営に尽力されるなど、その実行力と実績は言うまでもなく、リスク学の将来の発展において不可欠な存在であることから岸本氏を理事候補として推薦する。